

## 添付資料

### 「みんなの配信と交流プラットフォーム」 2次公募ニーズ調査部門に関する仕様書

2次公募ニーズ調査部門助成に際し、当財団において論点の整理と最低限希望する仕様案を以下に示します。必須項目を企画案に折込み、さらに応募される皆様のアイデアを盛り込んだ提案をお待ちしています。

#### 課題設定の背景

当財団では、コロナ禍の渦中に、地域や状況によって、子どもたちの取れる文化体験や交流体験の選択肢が異なっているのではないかという仮説を持っています。もしそうだとすれば、地域に限らず、コミュニティ（地縁・血縁）＋アソシエーション（概念や目的によるつながり）の融合において子どもたちが様々な選択肢を自主的に取れる状態を目指すべきだと考え、コロナ禍を振り返りながら、将来あるべき体験保障のあり方を問うべく、以上の命題に対して共感し、調査という形で主体的に取り組む団体を募集します。

#### 調査について

##### 1. 調査項目について以下の項目を必須とする

- ① コロナ禍において、子どもたちの文化芸術体験がどれだけ減ったか。特に、地域芸能・伝統芸能においてどれだけ減ったか
- ② 上記において、各地域における主体がどのようなアプローチ（配信を含む）を取ったか、取ろうとしたか
- ③ 上記において、どのような課題があったか
- ④ 上記において、子どもたちにどのような説明がなされたか
- ⑤ その他の項目について自由な提案をすること

##### 2. 調査対象について

- ① 基礎自治体単位で10程度を網羅すること。その内、複数箇所の離島・僻地を含めること  
⇒県内全域を対象とし、その内、離島・僻地を含めること
- ② 子どもを取り巻く環境を各地域毎で分析し、適切な主体に向けて調査を行うこと
- ③ 実行団体の事業対象（コンテンツ部門）に、疎外要因（アクセスの障壁）がそもそもあるか／ないか／どのような疎外があるのかについて調査を行うこと

##### 3. 調査手法について

- ① 二次情報調査、アンケートやインタビュー等を含め、適切な調査手法を提案すること
- ② 質的調査、量的調査を行うこと

##### 4. その他調査に係る必須要件

- ① 他団体との協働・連携（特に月1回程度の全体会議に参加し、情報交換・意見交換を行うこと）※「みんなの配信と交流プラットフォーム」事業全体で、月1回程度の全体会議が開催される予定です
- ② 最終的に刊行される「みんなの配信と交流プラットフォーム」の白書についての骨子作成や編集を担うこと

以上